

# 2023 年度 G T セミナー 第 57 回保育環境セミナー 子ども同士の関わり・異年齢編①

第333号 2023年7月19日発行

## ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や  
ご要望に応えるコンシェルジュがいる  
ように、保育においても様々な  
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=  
ミマモルジュとして、保育に関する  
ご要望にお応えしていけるよう  
活動していきます。

株式会社ガヤ 奥山卓矢

## 子ども同士の関わり・異年齢編①

2023年7月10日～12日に「第57回保育環境セミナー」  
(子ども同士の関わり・異年齢編)を開催しました。

オフライン参加は約150名、オンライン参加は60施設を超える  
お申し込みを頂きました。今回は、藤森代表から「子ども同士の関  
わり・異年齢」について考え方をお示し頂きました。

本誌含め、4回に分けてお送りする予定です。

## 【セミナー開催趣旨】

「見守る保育 藤森メソッド®」の提唱者 藤森平司先生は自身の実  
践から今の保育形態を構築しました。その実践のポイントは「子ど  
も同士」「異年齢」「子ども主体」「チーム保育」の4つです。

「見守る保育」という言葉はいろいろなところで一人歩きしてしま  
い、勘違いされることがあります。

そこで提唱者である藤森先生の名前を使用することで、しっかりと  
した理念とエビデンス、そして4つの重要ポイントを実践すること  
で差別化を図りました。

また実践園は根底が同じであるため、様々な実践が生まれます。  
その実践を互いに学び合うことができるのも、メソッド化した  
もう一つの理由です。

GTは乳幼児施設同士が繋がることを目的とした組織です。

今後より繋がりが深くなることを願っています。

ギビングツリー代表 藤森平司(新宿せいが子ども園 園長)

The flyer details the seminar structure and content. It features the logo of GivingTree and the title '見守る保育 藤森メソッド 保育環境セミナー'. A key message states: '今、子どもに必要な保育の「考え方」と「態度」を学ぶ。' (Learn the 'way of thinking' and 'attitude' of childcare that children need now). The program is divided into three days: Day 1 (7/10, 11, 12) focuses on '子ども同士の関わり・異年齢編' (Interaction between children of different ages); Day 2 (9/4, 5, 6) focuses on '子ども主体' (Child-centered); Day 3 (11/13, 14, 15) focuses on 'チーム保育' (Team childcare). The seminar is held over three days, with Day 1 being '園見学' (Garden visit), Day 2 being '講演・実践発表' (Lecture and practical presentation), and Day 3 being '園見学' (Garden visit). The flyer also lists the speakers and topics for each day.

---

## 第 57 回保育環境セミナー 基調講演（子ども同士の関わり・異年齢編）

保育環境研究所ギビングツリー代表 藤森平司氏（新宿せいが子ども園 園長）

---

### 目次

—はじめに—

—ある実験—

—人同士の関わり—

—自由遊びについて—

—AI 時代の子どもたちにとって必要なスキル—

—グローバル・多様性—

—公共投資の観点から幼少期の教育の重要性を説いた論文（ジェームズ・ヘックマン教授ら）—

—次の時代に必要なスキルの学び—

—これからの教育—

—トマセロによる「9 か月革命」—

—少子時代（人類の進化から見る子育て）—

### —はじめに—

皆さんおはようございます。久しぶりにこれだけ大人数で、この会場はやりにくいのが、横広で私が視線をどこに合わせていいのかわからない。正面見ると役員ばかりで（笑）。対面で学べるようになったと同時に、コロナが終わって色々なことが世界で起きています。コロナの影響が随分出ているので、どこかで話せたらと思っているがTVでも、アフターコロナの特集がされています。3年間の自粛期間、ソーシャルディスタンス、マスクの3年間を越えて、どういう影響をしているのか。脳にどういう影響を与えるかの論文が3~4万くらい論文が出ているそうです。世界中で問題が起きています。何歳の頃にコロナに出会ったか。何歳かによって大きく影響すると言われています。世界で危惧されているのが、大学生の頃に3年間を過ごした子どもたちですね。大学に入ってリモートで授業をして、人と会わず、人と会う時はマスク越しにしか会わない。そして就活がはじまった。そうするとイギリスは2割の大学生が引きこもったそうです。人に会うのが怖いからと対面で会わなくなってしまって、それを改善するPJがはじまっています。大学2,3,4年生でコロナを経た子たちが就職をし始めた。就職1年目の保育者たちは1ヶ月、2ヶ月でやめてしまう人が多い。精神的に病んでしまうことが多いということが世界的な課題です。もう一つは0,1,2歳の頃にコロナの3年間を過ごした子どもたち。言葉を覚える時期ですね。社会性を学ぶ時期に人と会わないように、会うにしても、マスク越しの大人しか見ていないと、言語の獲得にしても、赤ちゃんは耳から音声を聞くのと同時に、口元の表情と一致させて獲得していき、口からの表情を学べないことがあるんですね。あまり言われていないが、ちょうど発表が出ていたが京大の研究者だが、赤ちゃんがワクチンを打つと4ヶ月発育が遅れると出ているそうです。小さい子にはワクチンはしてはいけないと言われていたが、親が心配だからとワクチンを打つと、菌を入れることなので危険ですね。富岳のコンピューターがマスクをしていないと散らばり、マスクをしていると散らばるとというのが国民のトラウマになっていると出ていたが、私からするとあの映像がトラウマになっている。でないということは、ある意味、

新鮮な空気が入っていないということです。何年間も新鮮な空気を取り入れていない。マスクから入った息をもう一回吸っている中で生活しているので、多くの二酸化炭素を取り入れることを何年間もやっていると当然、集中力はつかないし、脳が活性化していかない。それを2, 3日熱が出ることを恐れて防いできたことで、いろいろな問題が起きています。育ちの問題も出てきています。

## —ある実験—

人は今日のテーマではないが、ある実験で人を10時間一人の部屋に隔離します。スマホもさせない。外部とコミュニケーションを取らないようにします。10時間後、仲間同士で話している写真を見せます。その写真を見せると、脳の中の中脳が活発に動くそうです。これは同時に10時間絶食させます。10時間経ったら、おいしそうなおごちそうの写真を見せると中脳が動くそうです。人間は食べないでいるのと、人に会わないでいると、人と会いたくなる脳が同じように動くそうですが、会いたいと思う方が、食べたいと思うの2倍脳が動くそうです。人間は絶食よりも、人に会いたい方が強く思うのが人間だという研究があるそうです。人とコミュニケーションを取ることが脳の中で求めている。別の研究ではマウスを2週間隔離します。マウスの2週間は人間の2, 3年です。そして、マウスを2週間後別のネズミに会わせると、普通のネズミは初対面のネズミのにおいをかいだり触ったりします。2週間隔離したネズミは会うことを怖がり会おうとしない。しかも会うことを怖がり始める研究があるそうです。人間がもともと人といたい渴望があるが、ある一定を超えると、人と会うことが怖くなる。会って何か言われると精神的に病んで、隅に過ごしてしまうという研究が言われています。2年間、3年間会わないでいる、会うというのは、京大の元総長の山際さんは、人と会うのは白目を見合うと言っています。白目を見ることで共感が身につくというのが、オンラインの画面越しで顔がずっと並んでいるのを見ても、会っていることにはならないので、共感が伝わらないと言われています。そこでの講義は本を読んでいるのと変わらないと言われます。白目を見ることは大切ということで、会場が細長いと白目が見えにくいので遠くの方は話しにくい。人の限界があって人は7メートルくらいしか見えません、この7メートルが学校の横幅です。学校は先生が全員を見るために、この作りです。授業は先生が知識を教えるところだったので、白目を見ないと対面にならないので、その広さになっています。遠くの距離は9メートル。白目が見れるというよりも、音声で肉声で聞こえるのが9メートルです。先生が全員を見るのにはいいが、皆さんだったら私しか見えませんね。私の話を一方的に聞くにはいいですが、お互いの考え方を共有するには無理ですね。外国では円形で話し合う、円形だと全員と白目が見えるからです。人は常に白目を見て、会って、対面で触れ合うこと。それが本来人間ですけど、何年間かしていないと、それを怖がり始めることがあります。一つは大学生の就活。1,2年目の出ていること、3歳までにそういう体験をした子たちが3,4,5歳児になってくると、社会性というお互いを見あい、自分はこうしようという行動がとれなくなる。自分勝手に動くとか、一見、発達障がいに見える子たちが急増しています。昨日、見学して頂いたうちの園でもいます。

## —人同士の関わり—

今年になって、コロナが終わったら増えています。それは人同士の触れ合いが上手くいかないの、先生の気を引こうとあちこちに逃げ回るので、追いかけるとその人数では無理です。ということが世界中で起きているそうです。コロナの影響ではないかと、脳の面から研究されています。人間は強いことではあるが、人同士が触れ合うこと、コミュニケーションを取るとは、人類が存続するためには重要なことで、私たちの保育園は0,1,2歳児の頃に自粛期間を経て、3歳になったのは大変というデータを違う風にするが、それはコロナだけではなくて、政府が進めている3歳まで育休を取らせることに結びつく気がしてならないです。3歳までお父さんかお母さんとだけ過ごして、3歳

から園に入ってきたら同じことだと思っんです。政府がそれを進めていると、0歳児の希望者が減っていると思っます。2歳から、3歳から入る子たちは大変だと思っます。コロナと同じ症状を示すと思っますね。いろいろ見た時に、人は小さいうちから出会い、触れ合い、同じ年齢、違っ年齢、大人という中で育てられることが大事。これが新聞に出ていました。小学校がコロナでアクリル板をやっていたのを、対面でする学校が増えてきた。小学校の公立小学校では、前を向いて食べている学校が多い。それはコロナにより、前を向いて食べた方が時間が早く終わるからという理由で、黙って食べなさいということで味をしめて、静かに食べれるんだと。コロナが終わっても、そう食べさせている。その横に専門家がコメントを書いていた。対面給食は、子どもにとってコミュニケーション能力、社会性を身に着けるのに重要であり、好き嫌いをなくすのに効果的である。特に低学年では顕著で効果的である。科学的な知識がないのに、自由に任せるべきではないと書いてあった。根拠をもって全員対面に戻させるべきと専門家から言うべき。教育はそういうものではない、子どもの何を育てるか。何が効果的なのか教育で、先生が知識を伝えるだけが教育ではない。どれだけ対面に意味があるかが書かれていました。そういうものを見た時に、コロナの問題は、人と人とのかかわり方の変化です。しかも、低学年でそうなら乳幼児期はさらにそう。いろいろなところから見ると、関わるのが大事であることが分かります。いくつか自分ながらに新しい発見があったが、コロナが終わり、対面が増えたと同時に、海外との行き来が復活していきました。皆さんの園でも一緒に行った先生がいると思うが、この前シンガポールの園に行ってきました、昨日は中国の方が来られ、中国とやり取りをしようとか、来週も中国の大学教授が来る。ある意味面白いことがあり、私の研究テーマが見つかりブログで書き始めている、シンガポールで見学した園は見守る保育を実践している園です。シンガポールで160~170園くらい実践しています。シンガポールはSPARKという評価項目があります。これを大阪で真似をしてOPARK（オパーク）というものを作っています。シンガポールで1, 2位を争う評価の高い園に行きました。もちろん環境もできていますし、子どもたちも自主的にやっていますが、参加者が一様に疑問に思っしたのは素晴らしいが、残念と思っるのが、自由遊びがない。午後の時間帯に子どもが勝手に遊んでいる時間帯がシンガポールにはないです。この自由遊びはないのにSPARKには、自由遊びの評価項目があるのかな？と思った。同時に日本における第三者評価の中に、自由遊びの項目はあるのかな？アメリカの環境スケールの中に、自由遊びを見て、評価するところはあるのかな？と思った。改めて自由遊びは何かを私の課題としてみた。たまたま埋橋先生がシンガポールのSPARKの論文の最後に、自分は何回も研修でシンガポールの園に何回も行った。シンガポールの園で、自由遊びを見たことがなかったと書いてある中に、自由遊びは欧米にだけ奨励されていると書かれていました。昨日来た中国も自由遊びはない。一つは自由遊びがないのが特徴です。もう一つのアジアの特徴が、異年齢保育が国として禁止されている。異年齢保育は、欧米に奨励されているということが言われています。それはどういう意味なのだろうと思っました。

## —自由遊びについて—

私のブログにかつて自由遊びを書いていたので整理をしているが、まずシンガポールは優秀な園で取り入れているので、異年齢も私が提案する異年齢の良さを感じていますが国で禁止されています。シンガポールで採った方法は、設定保育と言って先生がカリキュラムを組んでする保育があります。そこは年齢別でやるけど、それ以外は生活面を全て異年齢にする。そこは国はあまり言わないそうです。給食や掃除、掃除もシンガポールはしない国です。見守る保育を取り入れたので、掃除をする意味を分かっているので異年齢で助け合っする。シンガポールの他の園はやらないそうです。その法人は私の園に9月に来るが、自由遊びをやってみないか？と言っようと思っています。そのエビデンスを話してですね。ただ難しいのは、自由遊びと、放任遊びの違い。自由遊びの定義があるので、これ

については、もしかしたら次回の主体的の中に入るかもしれないが、今回は異年齢について話したいと思います。まず一つが「見守る保育」というが、どう手を出したり、したらいいなどがあるが、私が考えている異年齢保育がある。「見守る保育」というわけではないので、最近藤森メソッドという言い方、私が考える異年齢保育。この辺をもう一度確認したいと思います。よく言われる異年齢保育は、昔からやっている園が多いが、私の考えとは違う部分があるので、その辺りを中心に話をしたい。

## —AI 時代の子どもたちにとって必要なスキル—

AI 時代に向けてということで、AI 時代に向けて現在影響を与えているのが、生成 AI やチャット GPT。AI は計算をする、検索をすることが得意だったが、生成 AI は創造性、絵画にしても、詩にしても、プログラミングにしても、新しいものを生み出し人間を超える可能性があります。この間、創始者が日本に来たが、本人でさえ人類が滅亡することになりかねないと言っています。しかも 11 月に発表され、どんどん進歩しているので、どれだけ進むかわかりません。オズボーンがかつて、論文を出して将来 10 年から 20 年後に無くなる仕事が全体の半分あると言った予想が、このチャット GPT によって 1, 2 年で半分の仕事がなくなると言われています。特に文章を書く仕事はなくなり、危惧されています。私たち保育の世界はあまり関係ないので、関心がない人たちも多いが、実は私たちにとってありがたい話だと思っています。オズボーンの予言通りだとしたら、なくなる仕事のリストを出したが、逆になくなる仕事のトップに保育者が書かれています。それは人間しかできないからです。おむつを外す時に機嫌がこうだから、こうとか。これは一緒にいつも言っているシェフも同じだが、料理を作るときに、今日は暑くて汗をかいている人が多いから、味を普段より濃いめにしようとか、そういう感覚は人間しかできません。どんなことが起きようとも安定したものは機械が得意です。もし、保育が毎回同じ人が同じように、きちんとすることが安定すると思うなら、機械に代わってしまうと思います。たまには男性、若い人がやることによって、子どもは社会を知っていくことが大事だと思います。人類は共同保育をやってきたので、私は担当制は反対です。だったら機械の方が落ち着くと思います。そうではなくて、見ながら、人によって変わると思います。なくなる仕事のベスト 10 の 8 つは教員です。同じことを同じように教えるのはなくなると言われています。うちの妻が、てい先生のラジオを聞いていて、保育者の仕事の 8 割は事務仕事と言ったらいいです。妻がそうなの？と聞いてきたが、8 割は大袈裟にしても事務仕事が多く、ノンコンタクトタイムが提案されているが、チャット GPT を含めた生成 AI は、事務仕事はすべてコンピュータが出来るようになると思います。私たち人間にしかできない、子どもと一緒にいてやるのが、私たちの最後の仕事になると思います。試しに私の園で、5 月の園だよりをチャット GPT に巻頭言を書いてもらいましたし、保育日誌も試しに、天気と場所と年齢を入れて日誌を書いてもらうと 1 分で素晴らしいものを書いてくれますし、2 年目の職員として書いてと言えばそう書いてくれますし、ベテランと言えばベテランで書いてくれますし、機械でできてしまいます。実際は違うとか、これが本当かどうかは監査が言うかですね。監査で大事なものは、いつだれが何をしたかなのでチャット GPT で言いわけです。私たちがやらないといけないことを、精査しないといけないと思います。その時に子どももそうです。6 割なくなるけど、それ以上に新しい仕事生まれると言われています。新しい仕事のスキルを 3 つ挙げています。

- ・ 10~20 年程度のうちに自動化される可能性が高い (70%以上) 仕事は、全体の 47%

AI 時代の子どもたちにとって必要なスキル

21 世紀において「成功」するためには、

「対話する能力」 コミュニケーション力

「他と協力する能力」 コラボレーション力・集団思考力

「実行機能」 自己調整能力

3つとも人と人が関わる時に生まれる力です。人と人との関係です。ただの社交性ではなくて、対話する中で新しいものを生み出す力。実行機能は、大きな目的のために自分をコントロールする。私が世界中で一番できるのは、大谷翔平さんだと思います。昨日も遠征でNYへ行ったときに、観光スポットで一番いいところは？と聞かれたら、一切出たことがありません。観光スポットへ行くことは我慢すると言っていました。実行機能は、大きな目標・夢のために我慢する。お互いの意見を調整するために自分の考えを我慢する。そうすると、この3つが最も身につくのが自由遊びです。自由遊びは、この3つがないと成り立ちません。みんながお姫様になりたいと言ったら、遊びにならないです。今はいいよ、と後で交代ね、と我慢する、自分の感情をコントロールしないと成り立たないです。

## —グローバル・多様性—

日本で、シンガポールが脚光を浴びているのは、多言語で保育をするからです。保育室を見ると、ままごとゾーンをはロールプレイング英語と中国語の2か国語で書かれ、午前中は英語で保育をし、午後は中国語でしています。子どもたちは少なくとも、2か国語話せます。それは学力として必要からではなく、シンガポールは多国籍でいろいろな国の言葉を話している。その共通語をどうしようかとするとき、英語にしよう。その中でもう一つが、多くの国民が7割8割が中国人なので、中国語とをすること、表記が2つになっています。これから多様性やグローバル化が来ます。高田馬場の周辺で、溜まっている若者は日本語じゃなかったです。日本の若者は家でゲームをしているが、外で飲み歩いているのは他の国の人だが、グローバル化と同時に、多様性の中で言われているのがLGBTQ+とか増えて来ています。これはもう一つはどう思うか分かりませんが、トイレの男性用・女性用があるが、どちらに入るか。男女をなくそうと言って、恵比寿でトイレPJといって有名なデザイナーに設計をさせています。佐藤可士和さんが設計したトイレがあり、障がい者用と子ども連れ用、男女とがある。そしたら何が起きたか。女性が猛反対。男性が入った後は嫌だ、というのはどうかと思うが、どうしたらいいかと困るが、そういう時代になってきています。ただ英語をやればグローバル化という時代じゃありません。大事なのは民族的・文化的な多様性を共感できること。

例えば、移民の増加に伴って、学校のクラスや職場など様々な場所において、民族的・文化的・言語的な多様性が増大しています。そうになると、他者への共感生徒が、異なる文化に対する敬意とか、自己意識といったスキルがより重要になってくるのです。男女が平等というより違う性に対して、敬意を払うこと。これも人と人との付き合い方です。国によって性によって相手を区別しないことです。区別ならいいが差別しないということです。こういうのが異年齢に全部が出てくるので覚えておいてください。

中国から見学に見られ、「非認知能力」という言葉が中国でここ2、3年言われるようになった。日本は何年前から言われているか？と聞かれた。今の指針が出来た時と広くあるが、もともとはヘックマンが提案したことです。ペリー幼稚園の実践の中で、早期教育を先取りしたら、短期的には効果があったが、長期的にはなかった。社会に出て、成功し幸せになったのは認知的なものではないということが論文で発表され、ノーベル賞で採った発表です。

## —公共投資の観点から幼少期の教育の重要性を説いた論文（ジェームズ・ヘックマン教授ら）—

IQ（知能指数）を長期的に高められることに、就学前教育による特段の効果は認められない。（乳幼児期などの早い段階から教科学習を開始したとしても、長期的にIQを向上させるという面では効果が薄い。就学前教育を受けた子どもたちが最も伸びたものは、学習意欲をはじめ、誘惑に勝つ自制心や難解な課題にぶつかった際の粘り強さなどの「非認知能力」である。幼少期の教育によって伸ばすことができ、数字では測れない能力（非認知能力）が、結果として学業成績の向上や将来の就業、ひいては職業人として成功するかどうかという点につながっていく可能性が高い。

それを中国では政府が取り上げて、幼児期に早期教育の禁止令を出して、塾の禁止令を出しました。就学前に学校教育の先取りはしてはならない、幼児塾を通してはいけないということを出したんですね。それ以上に、非認知能力を身につけなさいと出したが、昨日来た人によると出されたはいいが、どうしたらいいかが分からないということにぶち当たっているそうです。大学の先生は大事とは言うが、どういう保育かは言わず、混乱しているそうです。そういう意味で、非認知能力という言葉だけが動いています。もう一つ調べた結果、非認知能力をイギリスやアメリカの研究が出している中の一つは、兵隊のところから出しました。優秀な兵士は、認知的なもの、外から見える顔がいい、頭がいいというのは、いい兵隊にならない。それ以外の能力がいい兵隊だということで、そこから非認知能力を出したということがあるが、そのほかのいくつかは、もともとは禅や仏教から出ている言葉が多いです。自分を見つめる力とか、滋賀に行く途中、たまたま京都でお昼を食べたので、どこか見ようかと駅のそばに龍谷大学ミュージアムがあり、ブッタの展示を見たが、その中に知恵と慈悲と書かれていた。これも実は非認知能力の一つで、自分に対する慈悲（セルフコンパッション）。それとか、マインドフルネス（過去にくよくよせず、今にフォーカスすること）も、仏教から出ている言葉だが、非認知能力の一つと言われていることがあって、乳幼児にこそ育つ。多くは人と関わる中で育つと思っています。中国が悩んでいる一つが大事だと言われているが、これをどうしたらいいか。時代が大きく変わっている。親やおじいちゃんおばあちゃん時代と変わっています。一番変わっているのは、兄弟の数が違うでしょ。親は7人兄弟、自分は4人、子どもは一人。私が生まれた年は合計特殊出生率が4.6で今は1.3とか大きく違います。今行われている教育は、子どもが多かった時代につくられた教育保育方法だったりする。そういう中でAIが出てくる、では、どうしたらいいか。

## —一次の時代に必要なスキルの学び—

私たちが必要とするスキルは、父母の世代や祖父母の世代に必要なものとは大きく異なります。簡単に言えば、いまだ世界において優秀な教育方法は、時代の変化に追いついていません。学校が認知的なことを教える教育から抜け出せない。

## —これからの教育—

人が社会の中で賢明に生きるための社会的知性とは、人と人との関係において感情、情動で働く社会脳が存在することが分かってきました。「社会脳における他人との同調する能力、傾聴する能力、共感的監視難度の能力の高さを伴ったうえで、高い知力、学力を持ってこそ、初めて人はより良い社会人として生きることができる。」（ゴールマン）ヒトは進化の結果、生まれながらに他者を意識するようにプログラムされています。私たちは本質的に社会的存在な

のです。これからのビジネスモデルはチームで働くことが中心になり、そのことをチームで学ぶ必要に迫られています。自分をコントロールしてコラボレーションすることは、私たちすべてに求められるスキルの中核です。

### —トマセロによる「9か月革命」—

赤ちゃんは、生後9か月頃になると、他者を意図を持った行為者と見做し、模倣や他者理解の発達を示すようになりました。そして、これ以後、それまでのように他者から学ぶというだけでなく、他者を通して学ぶようになります。この三項関係は、言語の獲得においても重要であり、社会性・コミュニケーションの発達において重要な指標の一つであるとされています。

### —少子時代（人類の進化から見る子育て）—

人類は700万年ぐらい前から、だんだんと熱帯雨林を出て草原地帯へ進出し、ついにアフリカ大陸を出た。そして200万年ぐらい前から脳がだんだんと大きくなり始めました。脳を大きくした理由は集団を大きくしたからである。この頃、家族が生まれる。家族は基本的に子どもを育てる集団。しかし人間の子どもは成長が遅いので、父母だけではやっていけない。そのために集団を大きくした。だから人間の家族というのは単体では存続できない。複数の家族が集まった共同体があるからこそ、人間の家族は存続できる。人間の社会は、もともと共同保育というものを重要な役割としてつくられたものだと思う。（次号に続く）

本稿は、2023年7月11日に開催した「第57回保育環境セミナー」の基調講演の内容をまとめたものです。

（文責/奥山卓矢）